兵庫教育大学　研究紀要　第24巻　2004年2月　pp.71－81

小学校社会科教科書の批判と開発
－小6「開国と明治の世の中」の単元をてがかりに－
The Criticism and Development of Social Studies Textbooks
－An Analysis of "Opening the Country to the World and the Society of *Meiji period* "in the 6th Grade of an Elementary School－

中　村　　哲*　　馬　野　範　雄**
Tetsu　NAKAMURA　　Norio UMANO

教科書は、授業を進めていく上で教師と学習者との媒介を図る大きな役割を果たしている。社会科の教科書は、学習指導要領に基づいた内容で構成されている。そして、教師の教授活動としての社会科教科書の性格が強い面があり、社会科の授業において学習者の学習活動にとって効果的に活用されているとはいえない問題がある。そこで、「子どもの主体的な学習活動を支える教科書であるか」という視点で新小学校社会科教科書分析を行い、その問題点を明らかにした上で、学習者が主体的に学習を進めていくことを保障する小学校社会科教科書の改善プランを提案したい。本小論では、小学校6年「開国と明治の世の中」の単元を分析の対象としながら、内容知、方法知、ページ構成という三つの視点から教科書の分析を行い、その問題点を明らかにしている。さらに、その三つの視点から明らかになった問題点の改善を意図して、「学習内容の精選」「問題解決的な学習の構成」「本文と資料の関連がわかりやすいページ構成」に留意した「開国と明治の世の中」における教科書プランを提案している。そして、これまで教科書会社によって作成されていた教科書が教師自身によって創られる可能性を示したところに意義がある。

キーワード：開国、問題解決的学習、社会科教科書、内容知、方法知
Key words：Opening the country to the world, Problem solving activities, Social studies textbook, Content knowledge, Procedure knowledge

Ⅰ　はじめに

社会科の学習指導における教科書の活用については、「教科書を教えるのではなく、教科書で教える」ことが原則である。すなわち、教師が教科書に記述されている社会的事象の内容について解説していくのではなく、学習者が教科書を参考資料として活用し、社会的事象についての特色やしくみを考察できるように指導するのである。しかし、通常の社会科の学習指導では、教科書の記述内容を解説する授業がよく見られるし、逆に教科書がほとんど活用されずに、学習者が見学・調査活動によって収集した資料や教師が作成したプリント資料の活用によって授業が進められることも多いのである。社会科の学習指導において教科書は教師と学習者の媒介となる重要な役割を果たしているが、通常の授業では、教科書を十分に活用しきれていないことが多いのである。

このような教科書活用における現状において、平成14年度から施行された新学習指導要領に基づく教科書では、教科書の記述内容が削減され、学び方を重視する構成になっている。

そこで、本小論では新学習指導要領に基づいて編集された小学校6年の教科書を次の3視点から分析し、その問題点を指摘する。そして、「開国と明治の世の中」の単元を例として、学習者が主体的に活用できる教科書の開発を試みる。

- 内容知（学習指導要領の内容や子どもの発達段階をふまえた記述内容になっているか。）
- 方法知（主体的・問題解決的な活動の構成をふまえた記述内容になっているか。）
- ページ構成（主体的な調べ学習を踏まえた見やすいページ構成になっているか。）

Ⅱ　新学習指導要領の改訂の概要

1　小学校社会科改訂の趣旨

新学習指導要領社会では、改訂の趣旨を次のように説明している。

> 2　社会科改訂の趣旨[1)]
> イ　改善の具体的事項
> (ウ)　第6学年の歴史学習については、我が国の今日までの歴史に対する興味・関心と愛情を深めるようにするため、人物の働きや代表的な文化遺産を中心にした歴史学習を一層徹底

*兵庫教育大学第2部（社会系教育講座）　**大阪府教育センター　平成15年10月21日受理

する。また、取り上げる歴史的事象を一層精選して扱えるようにし、いわゆる通史にならないようにする。

3　改訂の要点

(1)　目標の改善について

○　児童が地域社会や我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を一層深めるとともに、世界の人々と共に生きていくことが大切であることを自覚できるようにすること。

○　社会的事象に関心をもち、公正に判断できるように、各学年の発達段階に応じて、観察、調査したり、各種の資料を活用したり、調べたことを表現したりするとともに、社会的事象の意味や働きなどを考える力を育てること。

このように、学習指導要領に示された歴史学習における社会科改訂の趣旨や要点に関して、内容知と方法知の視点から整理すると、次のようにまとめることができる。

・《内容知》について

◇人物の働きや代表的な文化遺産を中心にした歴史学習の徹底

◇取り上げる歴史的事象の精選

・《方法知》について

◇社会的事象に対する関心をもって、調べたり表現したりするとともに、その意味や働きなどを考える力（学び方）の育成

2　歴史学習（明治維新）の内容

学習指導要領では、本単元に関する内容については、次のように説明されている。

(1)　我が国の歴史学習上の主な事象について、人物の働きや代表的な文化遺産を中心に遺跡や文化財、資料などを活用して調べ、歴史を学ぶ意味を考えるようにするとともに、自分たちの生活の歴史的背景、我が国の歴史や先人の働きについて理解と関心を深めるようにする。

カ　黒船の来航、明治維新、文明開化などについて調べ、廃藩置県や四民平等などの諸改革を行い、欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことが分かること。[2)]

したがって、教科書の編集では、精選された人物の働きや代表的な文化遺産を取り上げながら、それらに関する調査活動を通して学習者が歴史的事象の意味や働きなどを考えていけるように構成することが求められる。

Ⅲ　小学校歴史学習における教科書の問題点

小学校社会科の教科書は6社[3)]あるが、各社が取り上げた人物は【資料1】に示したとおりである。学習指導要領に例示された人物の数は42名であるのに対し、各社とも取り上げている人物は多い。中でも、日本文教出版は79名と最も多い。そこで、日本文教出版6年「開国と人々のくらし」の単元を分析の対象として、この単元における教科書構成を、内容知、方法知、ページ構成の視点から検討する。

1　内容知について

内容知については単元内容の核となる人物と歴史的事象をてがかりに検討する。人物については、学習指導要領に示されていない人物を含め取り上げている人物数が多いことが指摘できる。

【資料1】に示めされているように、ボダイセンナ、シャクシャイン、吉益良子、永井繁子など耳慣れない人物も含め、学習指導要領に例示に示された42名のおよそ2倍あたる80名の人物名が記載されている。特に、明治・大正時代に取り上げている人物は、学習指導要領の例示が7名に対し、日本文教出版では3倍以上の25名を取り上げている。また、名前だけをあげて、人物の説明をしていない例も見られた。また、明治維新では、次の4人の人物が独自に取り上げられている。

・坂本龍馬　・高杉晋作　・岩倉具視　・徳川慶喜。

歴史的事象については、歴史的事象間の流れ（通史）が詳しく説明されており、記述量が多く、歴史的事象の変化を把握しにくいことが指摘できる。学習指導要領では、「明治維新」における歴史的事象に関する学習内容[4)]は、「黒船来航」「明治維新」「文明開化」の3事項になっている。さらに、明治維新では、「江戸城の無血開城」「新政府樹立」「廃藩置県」「市民平等」の歴史的事象が取り上げられている。

これに対して、日本文教出版の「黒船来航は、世の中をどう変えたの」の単元で取り上げられている歴史的事象は、【資料2】に示したとおりである。導入のページから「江戸から東京に」「四民平等というけれど」のページまでが、学習指導要領の「黒船来航」「明治維新」の2事項に対応する記載になっている。また、「変わる生活」のページが、学習指導要領の「文明開化」の事項に対応する記載になっている。さらに、「わたしたちのまちの『明治』さがし」のページは、発展的活動の内容になっている。

【資料１】取り上げられた歴史上の人物

単元名	東京書籍	大阪書籍	教育出版	光村図書	日本文教	学習指導要領
1　古代	卑弥呼、ヤマトタケルノミコト ②	卑弥呼 ①	卑弥呼 ①	ヤマトタケルノミコト、仁徳天皇 ②	卑弥呼、ヤマトタケルノミコト、・大王の武 ③	卑弥呼 ①
2　飛鳥・奈良・平安時代	聖武天皇、行基、山上憶良、鑑真、聖徳太子、中大兄皇子、中臣鎌足、藤原道長、紫支部、清少納言 ⑩	聖徳太子、小野妹子、中大兄皇子、中臣鎌足、聖武天皇、行基、鑑真、藤原道長、藤原元命、 ⑨	聖武天皇、聖徳太子、小野妹子、中大兄皇子、中臣鎌足、鑑真、行基、ヤマトタケルノミコト、藤原道長、紫式部、清少納言 ⑪	聖徳太子、推古天皇、小野妹子、中大兄皇子、中臣鎌足、聖武天皇、行基、鑑真、桓武天皇、藤原道長、紫支部、清少納言 ⑫	ボダイセンナ、聖徳太子、中大兄皇子　中臣鎌足、小野妹子、吉備真備、阿倍仲麻呂、藤原道長、聖武天皇、国君麻呂、清少納言、鑑真、紫式部、行基、彰子 ⑮	聖徳太子、小野妹子、中大兄皇子、中臣鎌足、聖武天皇、行基、鑑真、藤原道長、紫式部、清少納言 ⑩
3　鎌倉・室町時代	源頼朝、平清盛、源義経、北条政子、北条時宗、足利義満、足利義政、雪舟 ⑧	源頼朝、平清盛、竹崎季長、北条時宗、足利尊氏、足利義満、足利義政、雪舟 ⑧	源頼朝、北条時宗、足利義満、足利義政、雪舟 ⑤	源頼朝、源義経、平清盛、北条政子、北条時宗、足利義満、足利義政、雪舟、竹崎季長 ⑨	平清盛、源頼朝、源義経、北条政子、竹崎季長、北条時宗、足利義満、足利義政、世阿弥、雪舟 ⑩	平清盛、源頼朝、源義経、北条時宗、足利義満、足利義政、雪舟 ⑦
4　安土・桃山時代	織田信長、豊臣秀吉、徳川家康、明智光秀、フランシスコ・ザビエル ⑤	織田信長、豊臣秀吉、徳川家康、フランシスコ・ザビエル、明智光秀 ⑤	織田信長、ザビエル、明智光秀、豊臣秀吉、徳川家康 ⑤	織田信長、豊臣秀吉、徳川家康、フランシスコ・ザビエル ④	織田信長、豊臣秀吉、徳川家康、武田勝頼、今川義元、明智光秀、フランシスコ＝ザビエル ⑦	ザビエル、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康 ④
5　江戸時代	徳川家光、シャクシャイン、伊能忠敬、杉田玄白、前野良沢、本居宣長、近松門左衛門、歌川広重、大塩平八郎 ⑨	徳川家光、雨森芳州、シャクシャイン、近松門左衛門、歌川広重、杉田玄白、本居宣長、伊能忠敬、大塩平八郎 ⑨	徳川家光、近松門左衛門、歌川広重、杉田玄白、前野良沢、本居宣長、高野長英、伊能忠敬、ペリー、徳川慶喜、坂本龍馬、西郷隆盛、桂小五郎 ⑬	徳川家光、増田四郎、歌川広重、近松門左衛門、本居宣長、杉田玄白、前野良沢、伊能忠敬 ⑧	徳川家光、増田時貞（天草四郎）、シャクシャイン、近松門左衛門、歌川（安藤）広重、杉田玄白、前野良沢、本居宣長、伊能忠敬 ⑨	徳川家光、近松門左衛門、歌川（安藤）広重、本居宣長、杉田玄白、伊能忠敬⑥
6　明治維新	ペリー、西郷隆盛、大久保利通、木戸孝允、岩倉具視、徳川慶喜、伊藤博文 ⑦	西郷隆盛、大久保利通、木戸孝允、徳川慶喜、勝海舟、坂本龍馬、ジョセフ・ヒコ、伊藤博文、岩倉具視 ⑨	福沢諭吉、大久保利通、木戸孝允、板垣退助、大隈重信、伊藤博文 ⑥	ペリー、井伊直弼、勝海舟、高杉晋作、西郷隆盛、大久保利通、木戸孝允、坂本龍馬、徳川慶喜 ⑨	ペリー、坂本龍馬、木戸孝允、高杉晋作、岩倉具視、大久保利通、西郷隆盛、勝海舟、徳川慶喜、明治天皇、福沢諭吉 ⑪	ペリー、勝海舟、西郷隆盛、大久保利通、木戸孝允、明治天皇、福沢諭吉 ⑦
7　明治・大正時代	福沢諭吉、板垣退助、大隈重信、陸奥宗光、小村寿太郎、東郷平八郎、与謝野晶子、北里柴三郎、野口英世、志賀潔、田中正造、平塚雷鳥、市川房枝 ⑬	福沢諭吉、板垣退助、大隈重信、陸奥宗光、東郷平八郎、小村寿太郎、与謝野晶子、柳寛順、柳宗悦、田中正造、平塚雷鳥、山田孝野次郎、北里柴三郎、津田梅子、野口英世 ⑮	東郷平八郎、与謝野晶子、陸奥宗光、小村寿太郎、新渡戸稲造、北里柴三郎、志賀潔、野口英世、田中正造、山田孝野次郎、平塚雷鳥、津田梅子 ⑫	福沢諭吉、津田梅子、山口尚芳、岩倉具視、伊藤博文、板垣退助、大隈重信、東郷平八郎、与謝野晶子、陸奥宗光、小村寿太郎、田中正造、野口英世、北里柴三郎、志賀潔、南方熊楠、坪内逍遙、夏目漱石、樋口一葉、黒田清輝、岡倉天心、フェノロサ、高村光雲、滝廉太郎、モース ㉕	吉益良子、永井繁子、津田梅子、山川捨松、上田悌子、板垣退助、大隈重信、伊藤博文、与謝野晶子、ウィッテ、ルーズベルト、コッホ、小村寿太郎、東郷平八郎、柳寛順、渋沢栄一、大原孫三郎、田中正造、陸奥宗光、平塚雷鳥、北里柴三郎、野口英世、安重根、市川房枝 ㉔	大隈重信、板垣退助、伊藤博文、陸奥宗光、東郷平八郎、小村寿太郎、野口英世 ⑦
8　昭和初期						
9　昭和後期		湯川秀樹 ①		湯川秀樹、古橋広之進 ②	向井千秋 ①	
合計	５４	５７	５３	７１	８０名	４２名

【資料2】文教出版6年上「黒船来航は、世の中をどう変えたの」における歴史的事象

小単元	歴史的事象
導入	・ペリー来航　・和親条約 ・通商条約　・薩長同盟 ・大政奉還　・江戸城開城
江戸から東京に	・大政奉還　・五か条の御誓文 ・明治維新　・中央集権 ・徴兵令　・地租　・富岡製糸工場
四民平等というけれど	・四民平等　・華族、士族、平民 ・蝦夷地から北海道へ ・琉球から沖縄へ
変わる生活	・文明開化　・学問のすすめ
わたしたちのまちの「明治」さがし	・茨城県 ・ホームページをつくろう

学習指導要領に示された学習内容に対して、取り上げている歴史的事象が多いと言うことはできないが、それぞれの説明が詳しく、また、それが歴史的事象間の説明にもなり、文章量が多くなっている。したがって、歴史的事象の関連的変化が理解しにくい内容になっている。

2　方法知について

方法知については、歴史的事象についての調べ学習の方法をてがかりに検討する。本単元では、導入のページにおいて、「ペリーのおくり物」の写真（図1参照）を2ページの見開きで提示している。

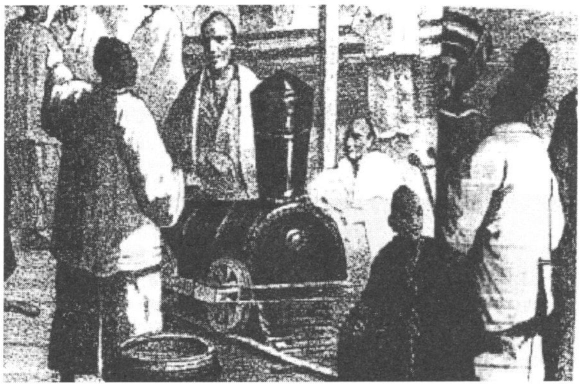


図1　ペリーのおくり物

そして、説明文として次のような記述されている。

> 1854年、ふたたび日本をおとずれたペリーは、幕府へのみやげとして、電信機と蒸気機関車の模型をおくり、それを実験して見せました。
> 欧米人の近代生活は、日本人にとって、ことごとくおどろきでした。
> そこで、国内のしくみを切りかえ、欧米の文化をとり入れて、欧米の国々におとらぬ国をつくろうとしました。
> それが、近代のあけぼの、明治維新です。[5)]

このように、ペリーのおみやげの内容やその後の日本の対応についての概要と明治維新のことばの説明をしているだけで、これから何を学習していくのかについて、学習者が示唆を得る構成になっていないのである。単元の導入において、その単元の学習内容に対する興味・関心を高め、その単元で学習する内容を示唆する（調べる観点や学習の見通しを意識させる）ことが必要である。したがって、学習計画を立案するための調べる観点が示されていないことが指摘できる。

本文の記述内容は、歴史的事象の概略的な説明が多く、この単元で想定される子どもの疑問や興味・関心などについての例がほとんど示されていない。例えば、「江戸から東京に」の最初のページでは、次のように明治維新の様子が解説されている。

> 新しい政府は、1968年、政治の基本方針として、五カ条の御誓文を示しました。これは、明治天皇が神の前でちかうという形で発表されました。同時に各地に5枚の立て札を立てて、国民の守るべき決まりを示しました。江戸を東京に改め、年号を明治とし、天皇は東京に移るなど、つぎつぎと政治や社会のようすを改めていきました。明治維新といいます。

このように開国による政治や人々のくらしの変化について、どのように調べたり考えたりするのか、「調べ方」「学び方」について、学習者はほとんどわからない解説になっているのである。したがって、学習者の調べ学習を想定していない問題が指摘できる。

さらに、教科書の「変わる生活」の記述内容では、学習課題を「欧米から取り入れられ、広まっていったものには、どんなものがあるでしょう」と明示している。それに対して、想定した学習者の反応としは、「日本人は、家に上がるときは靴をぬぐからね」「声といっしょに荷物も届くと思ったのかな」といったものである。これでは、学習課題に対して学習者の意識が対応しているとは言えないのである。なお、文明開化が進められていったことを学習目的とするならば、その意味や働きについての「考え方」を示唆するような学習者の反応例を記載する必要がある。したがって、学習者の意識の流れを想定していないことが指摘できる。

3　ページ構成について

ページ構成については、コンテンツである解説文と資料等、そしてデザインをてがかりに検討する。解説文については内容知について指摘したように記述量が多く、事実解説の羅列になっている。

解説文と資料等の関係については、解説文に直接に関係しない資料等を掲載していたりして、解説文と資料等の関連性を欠いていることが指摘できる。例えば、小単元「四民平等というけれど」において、「天地のはかり」を図示し、「明治時代中ごろの絵で、人々はみな平等であることをあらわしています」という解説をつけている。しかし、解説文では、農民にとっても華族や士族にとっても喜ばれるものではなかったことが記述されている。また、小単元「変わる生活」において、「第一国立銀行」の写真を提示し、解説なしで建物の名前だけを記載している。この解説文では、汽車が出発したあとに、ぞうりがおいてあったことや電話線にふろしきがぶら下がっていたことなどが記述されている。

ページのデザインについては、教科書全体又は単元全体との関連及び本時の授業との関連をてがかりに検討する。どのページも見開きで、一つのテーマでページを構成している。しかし、資料や図・写真などの大きさや位置が不規則であるので、本文の字数が行によって少なくなったり、行頭がそろっていなかったりして、読みにくい構成になっているところがある。さらに、資料の大きさや文の位置がバラバラで見にくいことが指摘できる。

Ⅳ　小学校歴史学習における教科書の改善

1　内容知について

内容知については、先に指摘した人物と歴史的事象に関する問題点に対して、「取り上げる人物名を精選すること」「主な歴史的事象について精選し、簡潔に説明すること」の視点に基づいて改善する。

前者の視点については、現行教科書の本単元「黒船の来航は、世の中をどう変えたの」では、10名の人物名が掲載されているが、学習内容の精選の趣旨を生かし、改訂教科書の単元「開国と明治の世の中」では次の7名を取り上げることにした。・ペリー、・勝海舟、・木戸孝允、・岩倉具視、・大久保利通、・西郷隆盛、・福沢諭吉（7名)。

後者の視点については、開国による明治の世の中を、「外国との関係」「国内の政治「くらしの変化」という三つの観点を踏まえて歴史的事象の関連的変化を追究しやすいように構成した。(資料4「開国と明治の世の中」の教科書モデルを参照)

例えば、「外国との関係」では、次のような学習の流れを想定して構成している。「ペリー来航→開国（日米修好通商条約）→使節団の派遣(pp.3～4)」。具体的には、「外国との関係」では、はじめに「黒船来航」の図を提示し、その内容について話し合うことで、「江戸幕府は、どうして開国したのか」という学習課題を設定する。次に、開国への経緯や条約の内容を説明し、子どものキャラクターに、次のような感想を話し合わせる。「こんな不平等な条約を、なぜ認めたのかな。」「日本の国の力は弱く、しかたなく結んだんだよ。くやしかっただろうね。」そして、日本の対応として、大久保利通や岩倉具視などの欧米視察団の派遣について解説する流れである。

さらに、「国内の政治」では、次のような学習の流れを想定して構成している。「中央集権の政治→身分制度の廃止→富国強兵(p.5～6)」。具体的には、「国内の政治」では、はじめに「江戸城へ入る天皇の行列」の図を提示し、「明治政府は、どんな国をつくろうとしたのかな」という学習課題を設定する。そして、次の3点の内容を追究していく。「廃藩置県による中央集権の政治の確立」「五か条の御誓文による身分制度の廃止」「徴兵令と官営工場の設立による富国強兵政策」。さらに、子どものキャラクターに、次のような感想を語らせることで、明治政府の意図を感じることができるように構成している。「税金で集めたお金で、文化や技術を取り入れようとしている。」「外国に負けない豊かで強い国にしようと思ったのかな。」

2　方法知について

方法知については、先に指摘した調べ学習の方法に関する問題点に対して、「学習の見通しをもつことができること」「学習課題と学習者との意識のつながりを図ること」の視点に基づいて改善する。

前者の視点については、本単元の学習を始める(pp.1～2）にあたり、「明治時代の東京」の様子を示した図を提示し、江戸時代の町の様子と比べることによって、明治時代になって大きな変化があったことに気付かせる。そして、その理由について話し合うことによって、「外国との関係」「国内の政治」「くらしの変化」のような調べる観点に整理し、これからの学習の見通しをもてるようにしている。

後者の視点については、各小単元ごとに次のように設定している。

【資料3】各小単元の子どもの意識の流れ

単元導入ページ	◇江戸時代の町のようすと比べて、どのように変わったかな。 ◇どうして、こんなに大きく変わったのでしょう。年表から予想してみましょう。 ↓ ・外国との交流を始めたからでしょう。 ・政治の仕方が変わったからではないかな。 ・科学や文化が発展したから、くらしの様子も変わってきたんだよ。

(1) 外国との関係	◇江戸幕府は、どうして開国したのかな。 ↓ ・こんな不平等条約を、なぜ認めたのかな。 ・日本の国の力は弱く、しかたなく結んだんだよ。くやしかっただろうね。
(2) 国内の政治	◇明治政府は、どんな国をつくろうとしたのかな。 ↓ ・税金で集めたお金で、文化や技術を取り入れようとしている。 ・外国に負けない豊かで強い国にしようと思ったのかな。
(3) 人々のくらし－四民平等	◇平等になって、本当にくらしやすくなったのかな。 ↓ ・すべての国民が、本当に平等になったわけではないんだね。 ・本当の平等が保しょうされるのには、まだまだ長い時間と努力が必要だったのね。
(4) 人々のくらし－文明開化	◇人々のくらしは、どのようにかわったのかな。 ↓ ・いろいろなことがどんどん変わって、当時の人は、大変だっただろうな。 ・そんな人々の苦労と努力で、日本はどんどん近代化されていったのでしょうね。

例えば、「人々のくらし－文明開化」では、「ペリーのおくり物」の図を提示し、それをもとに人々のくらしの変化について話し合うことで、学習課題「人々のくらしは、どのようにかわったのかな」を設定している。そして、文明開化の様子や福沢諭吉の考えを追究していく。最後に、子どもの意識として、キャラクターに次のような感想を語らせている。「いろいろなことがどんどん変わって、当時の人は、大変だっただろうな。(文明開化)」「でも、そんな人々の苦労と努力で、日本はどんどん近代化されていったのでしょうね。」

各小単元においても、〔資料３〕を踏まえて学習課題と学習者の意識との関連を図るように構成している。

3　ページ構成について

ページ構成については、先に指摘した解説文、資料等、デザインに関する問題点に対して、「歴史的事象を精選し、見出しをつけて簡潔にすること」「解説文と資料等の関連を図ること」「わかりやすいデザインにすること」の視点に基づいて改善する。

最初の視点については、「国内の政治」(pp.5～6)では、「天皇中心の中央集権の政治へ」「身分制度をなくす」「富国強兵をめざす」の３点について見出しをつけて、簡潔な解説文にしている。

第２番目の視点については、「外国との関係」(pp.3～4)では、最初に「黒船の来航」の図を提示することによって、敵対関係を意識させる。次に、「使節団の出発」の図を提示することによって、外国に学ぶ姿勢に変わっていったことを意識できるようにしている。

また、「人々のくらし－四民平等」(pp.7～8)では、「明治になって変わったこと」をメインの資料として提示し、人々に多くの自由や権利が認められていったことをとらえられるようにしている。そして、「地方の様子」を提示することで、文明開化は地方にまでゆきわたっていない事実にも気付かせ、多面的な見方ができるように配慮している。さらに「人々のくらし－文明開化」(pp. 9～10)では、「ペリーのおくり物」で示した模型の蒸気機関車が、「鉄道の開通式」によって実現していることを意識づけ、文化や技術の吸収と活用が進んでいることをイメージ化できるようにしている。

第３番目の視点については、教科書を開いた時、学習者が見やすく、本文を読んでいけるように、次のような配慮をしている。

- 学習の見通しをもてるようにするための資料「明治時代の東京」については、見開き２ページで掲載して、資料の見方も指導できるように、比較のポイントを記述している。
- メインの資料は見開きの左ページ上に大きく取り上げ、その図をじっくり読みとることで学習内容に対する興味・関心を高めることができるようにしている。
- サブの資料はページの外側に小さく掲載し、本文の内容について、参考にすることができるようにしている。
- 文章は小見出しをつけて、文章の長さや量も、簡潔に示すようにしている。

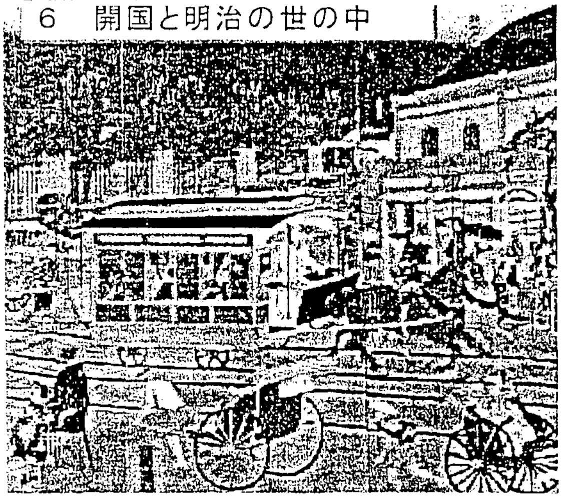
4　開発モデルの具体例「国内の政治」

開発モデルの教科書は、12ページの構成になっている。[6)] そして、見開き２ページを１時間の授業で取り扱えるようになっている。奇数ページには各授業における学習課題が明示され、基本的にその学習課題を学習者が教科書の解説文と資料等を参考に学習活動ができる構成になっている。

第１時では、「明治時代の東京」の絵から、江戸時代から明治時代に大きな変化があったこと（「江戸時代の町のようすと比べてどのようにかわったかな」）をとらえ、明治の世の中を学習する観点として、次の３点が設定されている。「①外国との関係　②国内の政治　③くらしの変化」。そして、「①外国との関係」については、第２時において、「江戸幕府は、どうして開国したのか」の課題に基づく学習活動として構成されている。「②国内の政治」については、第３時において、「明治政府は、どんな国をつくろうとしたのかな」の課題に基づく学習

【資料4】教科書改善モデル

6　開国と明治の世の中

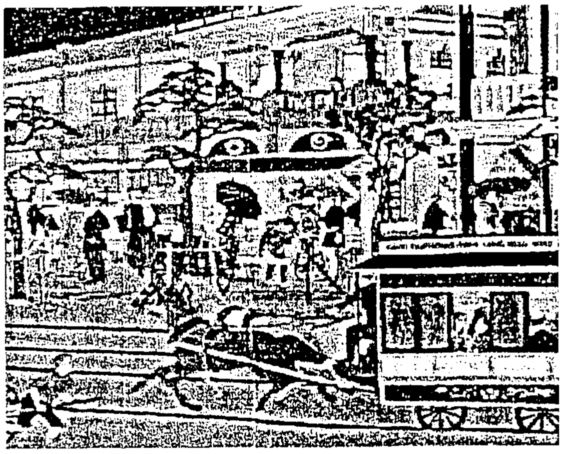


▲明治時代の東京

江戸時代の町のようすと比べてどのようにかわったかな。

比較のポイント
絵や図を比較するときは、建物や服装など、自分で観点を決めて比べると違いを見つけやすい。

○建物や街のようす
○街を歩いている人の服装
○街をはしる乗り物のようす



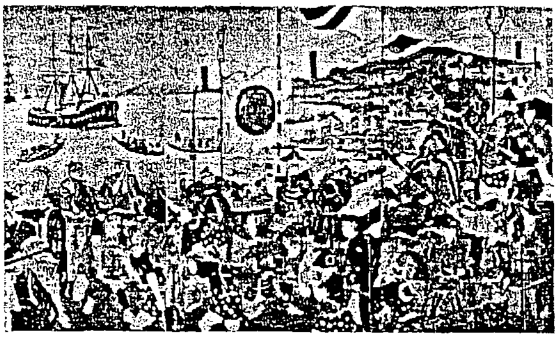
どうして、こんなに大きくかわったのでしょう。年表から予想してみましょう。

外国との交流を始めたからでしょう。

政治の仕方が変わったからではないかな。

科学や文化が発展したから、くらしの様子も変わってきたんだよ。

年	できごと
1853	ペリーが浦賀にくる
1854	日米和親条約を結ぶ
1858	日米修好通商条約
1867	大政奉還
1867	五か条のご誓文
1869	版籍奉還
1870	人力車が走る
1871	廃藩置県
	郵便をはじめる
	四民平等
1872	富岡製糸工場
	学制が定められる
	新橋－横浜間に鉄道
1873	徴兵令
	地租改正条例
1877	西南戦争
1878	銀座にれんが街
1887	東京に電灯



黒船の来航

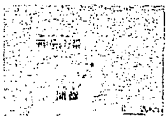
(1) 外国との関係

江戸幕府は、どうして開国したのかな。

ペリー

1853年、アメリカ合衆国の使者ペリーが、4せきの軍艦を率いて、東京湾の入り口の浦賀（神奈川県）にあらわれ、大統領の手紙を示し開国を求めました。

幕府は、鎖国を続けようとしましたが、ペリーの強い態度と、軍艦や大砲の力におどろきました。翌1854年、アメリカの要求を入れて、日米和親条約を結びました。こうして200年余りにわたる鎖国は終わり、人々は新しい政治のしくみを考えるようになりました。



浦賀の位置

○アメリカと結んだ条約は、どんな内容かな。
○どんな人が活躍したのかな。
○どんな日本にしようとしたのかな。

☆外国と結んだ条約とは？

このとき結ばれた日米修好通商条約では、下田の他、6港を開いて貿易ができるようにしました。

しかし、日本は、自分で税金をかけたり、罪をおかした外国人の裁判ができませんでした。

日米修好通商条約
一　下田と函館のほか、神奈川・長崎・新潟・兵庫（神戸）の港を開く。
一　日本の輸出品にかける税金（関税）は、アメリカと相談して決める。
一　日本人に対して罪をおかしたアメリカ人は、アメリカ法律にもとづいて、アメリカ領事が裁判する。
（一部をやさしく書きなおしたものです）

こんな不平等な条約を、なぜみとめたのかな。

日本の国の力は弱く、しかたなく結んだんだよ。くやしかっただろうね。

☆そこで、明治政府の主な人たちはどうしたのかな？

1871年（明治4年）、大久保利通、岩倉具視、木戸孝允など、日本の使節団がアメリカやヨーロッパに視察にでかけました。

▲使節団の出発

年	できごと
1825	外国船打ちはらい令
1841	中国でアヘン戦争
1844	オランダ国王が開国をすすめる
1853	ペリーが浦賀来る
1853	日米和親条約を結ぶ
1858	日米修好通商条約
1862	生麦事件がおこる
1863	薩摩藩がイギリスと戦う
1864	4カ国連合軍が下関を攻撃する
1867	徳川慶喜が政権を朝廷に返す
1871	日本の視察団が欧米視察に出発

☆この時代に活やくした人たちは？

勝海舟

西郷隆盛

木戸孝允

大久保利通

▲江戸城へ入る天皇の行列

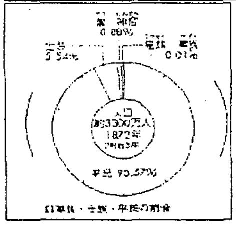
▲藩から府県へ（廃藩置県）

(2) 国内の政治

明治政府は、どんな国をつくろうとしたのかな。

五か条の御誓文

一　政治のことは、会議を開き、よく議論して決めること。
一　みんなが力を合わせ、しっかり政治をすること。
一　国民の一人ひとりの望みがかなえられ、みんなが満足してくらしていけるようにすること。
一　古いしきたりをやめて、道理にしたがって進むこと。
一　知識を世界からとり入れ、国の発展をはかること。
（やさしく書きなおしてもです）



天皇中心の中央集権の政治へ

政府は、大名たちに、領地と領民を朝廷に返させました。その後、藩をやめて県をおきました。大名たちは東京に集められ、そのかわりに政府の役人が知事となりました。

欧米の国々に対して独立を保つためには、中央集権のしくみが必要だったのです。

身分制度をなくす

政府は、政治の方針（五か条の御誓文）を示し、改革を行いました。

江戸時代の身分制度を改め、武士や農民・町人を平等としました（四民平等）。そして、だれでも名字を名乗ることや、職業や住む場所も自由に選べることができるようにしました。

- 5 -

に、人々が守るきまりを発表しました。

一　新人などの弱者をいためつり、殺人などの悪事をしてはいけない。
一　大ぜいで集まり、要求を通そうとしたり、村からにげ出したりしてはいけない。
一　キリスト教は禁止する。
一　外国人に暴力をふるわない。
一　他国へ逃亡してはならない。
（やさしく書きなおしたものです）

富国強兵を目ざす

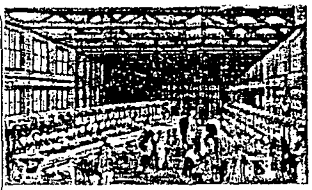
政府は、1873（明治6）年、徴兵令を出し、20歳になった男子に、3年間、軍隊に入ることを義務づけました。また、国の収入を安定させようと、全国を測量して土地の値段を決め、土地に対する税（地租）を、現金でおさめさせました。

税金をもとに、政府は、外国から機械を買ったり、技師を招いたりして、製糸や紡績、造船や兵器の官営工場をつくりました。

年	できごと
1868	五か条の御誓文が出される 五ぼうの掲示が出される 年号を明治と改める
1869	明治天皇が京都から東京に移る 大名たちが、土地と領民を朝廷にかえす 華族・士族の制度が定められる
1870	平民にみょう字をゆるす
1871	藩を廃止、府県がおかれる 四民が平等になる
1872	富岡製糸工場が建てられる
1873	徴兵令が出される 地租改正が出される
1876	廃刀令が出される 士族の反乱が各地におこる
1877	西南戦争がおこる

富岡製糸工場

1872年、群馬県富岡につくられた製糸工場が仕事をはじめました。ここで働いた女子労働者の多くは、士族のむすめたちでした。製糸技術の教育を受けたあと、それぞれの土地へ帰り、技術を伝えました。



- 6 -

(3) 人々のくらし－四民平等

平等になって、本当にくらしやすくなったのかな。

▲地方の様子

四民平等になりましたが、身分は、天皇やその一族は皇族、大名や公家は華族、武士は士族、その他は平民、という新しい形で残されました。

四民平等となったからには、税をおさめたり、兵役についたりしなければなりません。農民だった人たちにとっては、江戸時代に比べて、負担が軽くなったわけではありませんでした。

華族や士族も、政府からの援助金が少なくされたり、刀をさすことを禁止されたりしました。

こうして、しだいに政府に不満をもつ人々がふえていきました。

江戸時代、身分制度のもとで、長い間差別に苦しめられてきた人々も、1871年、平民とされ、身分上は解放されました。しかし、政府は差別をなくすための政策や生活の改善は行いませんでした。望んだ仕事につくことや教育を受けることもむずかしく、結婚や就職、住む場所など、日常生活では差別され、強められていきました。これに対して、解放の法令をきっかけに、このの ち自らの力で差別をなくす活動を進めていきました。

蝦夷地から北海道へ

政府は、1869年に蝦夷地を北海道と改称し、開拓を進めました。そして、アイヌの人たちの土地を取り上げ、日本式の名を名乗ることや、日本語の使用を強制しました。こうして、アイヌの人たちの生活はうばわれていくとともに、差別が強まっていき、今日までつづいています。

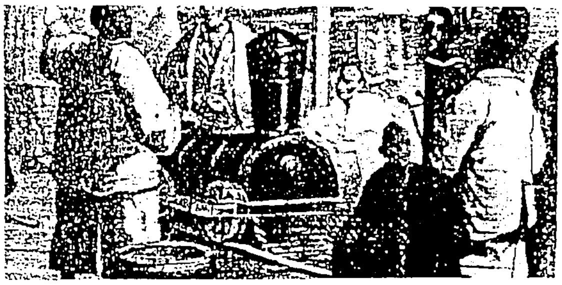
▲アイヌの人々

琉球から沖縄へ

江戸時代、琉球は、日本と清との両国に使いを送っていました。

政府は、琉球が日本の領土であることを明確にするため、琉球の王を藩主とする琉球藩をおきました。1879年に、軍隊を送って首里城を占領し、琉球藩を廃止して、沖縄県とすることを強行しました。

▲占領された首里城（復元）



▲ペリーのおくり物

(4) 人々のくらしー文明開化

人々のくらしは、どのようにかわったのかな。

▲ゆうびん局の様子

▲学校の様子

変わる生活　明治になると、西洋の制度や技術、ものの考え方、生活のしかたなどが、さかんに紹介されました。西洋風のものをどんどん取り入れていくことは「文明開化」とよばれ、もてはやされました。

電信や電話や新聞、郵便や学校の制度も整い、西洋風の建物、ガス灯、鉄道などもでき、町のようすがかわっていきました。

文明開化は、東京などの都市が中心でしたが、やがて地方にも広がり、何事も始めての人々の間には、いろいろなエピソードが残されています。

- 9 -

▲鉄道の開通式

▲牛なべを食べている

たとえば、汽車が出発したあとのプラットホームには、ぞうりがいくつもきれいにならべてあったとか、電話線にふろしきがぶら下がっていた話は有名です。

福沢諭吉も、外国のようすにおどろいた一人です。諭吉は、27歳のときに、遣欧使節団に加わってアメリカへわたり、自由や権利の大切さを学びました。日本にもどると、大学を開いて若い人々の教育に力を入れるかたわら、「学問のすすめ」などの書物をあらわし、身分制度は親のかたきだといって江戸時代の制度や考え方を批判するとともに、自由や権利を尊重する考えを広めました。

福沢諭吉

年	できごと
1869	乗合馬車営業開始 電信の開通（東京・横浜間）
1870	人力車営業開始 日刊新聞発行
…	自転車やこうもりがさなどの使用がはじまる
1871	郵便制度の開始
1872	鉄道開始（新橋・横浜間） ガス灯の点火（横浜の外国人居留地） 洋服を礼服として採用
1873	太陽暦の実施
1874	東京・銀座にれんが街完成
1875	東京気象台設置
1876	官庁で日曜日全休・土曜日半休を実施
1882	鉄道馬車営業開始 上野動物園開園
1887	電灯の点火
1890	電話開通（東京・横浜間）
1893	最初の国産蒸気機関車
1895	市内電車開通（京都）

- 10 -

わたしたちの町の「明治」さがし

◇ホームページにまとめよう

今に残る町の「明治」

(1) 町のあゆみ
(2) 町の残る「明治」
(3) 小学校の移り変わり

〇〇市立〇〇小学校６年〇組作成

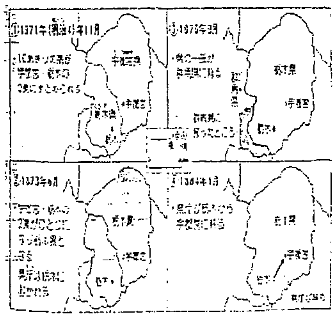
栃木県宇都宮市に住むあすかさんは、栃木市に行ったとき、「栃木県庁跡」という記念碑や、「県庁ぼり」というほりを発見しました。県庁は宇都宮市にあるのに、ふしぎに思いました。父にたずねると、明治のはじめに宇都宮県と栃木県があったことを、教えてくれました。

☆ホームページをつくろう

①手わけして情報を集める
・案内板やパンフレットなどを読んで調べる。
・図書館や博物館、市役所などの資料で調べる。
・地域の歴史にくわしい人から話を聞く。
※写真も写しておこう。

②集めた情報を整理する
・何を、どんな順序で紹介するか決める。
1　市のあゆみ
2　小学校ができるまで
3　小学校の建物など
・調べたり聞いたりしたことを、自分のことばで文にまとめる。

では、どうして二つの県がいっしょになったとき、宇都宮県としなかったのでしょう。あすかさんは、県のなり立ちについて、郷土歴史事典で調べてみました。そして、明治のはじめ、下の地図のような移り変わりがあったことを知りました。



年	できごと
1871	廃藩置県によって、宇都宮県と栃木県ができる
1873	栃木県にまとめられる。栃木町に県庁
1879	第１回県会議員選挙
1880	那須の開墾を始める
1885	東北本線が宇都宮まで開通
1888	市町村制の公布
1891	田中正造、帝国議会で足尾銅山鉱毒事件について問う
1902	宇都宮に電力供給

みなさんも、自分の地域の県（都・道・府）のなり立ちや変遷を調べて、新聞にまとめたりホームページを開いたりしてみましょう。

③ホームページの画面をつくる
・見出し、説明文、写真などのならべ方を考える。
・実際にならべていく。
※ほかのホームページや解説書などを参考にしよう。
※電子メールのアドレスをのせて、感想や情報を送ってもらう。

活動として構成されている。「③くらしの変化」については、第4時において、「平等になって、本当にくらしやすくなったのかな」の課題に基づく学習活動、さらに第5時において、「人々のくらしは、どのようにかわったのかな」の課題に基づく学習活動として構成されている。最後に、発展活動として「わたしたちの町の『明治』さがし」という課題に基づくホームページ制作が紹介されている。

このような全体構成を踏まえて、各ページは関連づけられて開発されている。各ページの具体的構成については、第3時の「国内の政治」(pp. 5-6) を取り上げて説明する。本時「国内の政治」は、「江戸城に入る天皇の行列」の絵をきっかけにして、明治政府の国内の政治を調べ、「①　天皇中心の中央集権の政治　②　身分制度の撤廃　③　富国強兵」の3点から整理できるように構成されている。具体的に、天皇中心の中央集権の政治に関する内容として、次の2資料を提示している。「①　藩から府県へ（廃藩置県）②　五か条の御誓文」。この資料を解説する形で、中央集権の政治のしくみをとらえることができるように構成している。

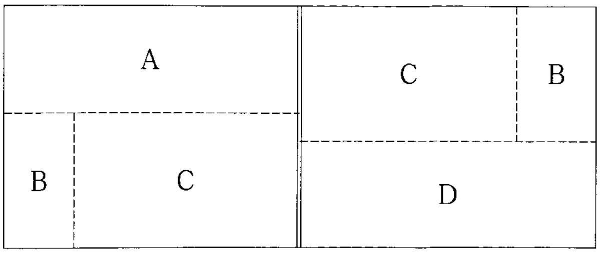
身分制度の撤廃に関する内容として、次の2資料を提示している。「①　華族・士族・平民の割合　②　五ぼうの掲示」。ここでは、身分制度をなくすという政府の基本方針を説明しながらも、全ての身分制度がなくなったのではないことや、五か条の御誓文に示されたように、国民一人一人の権利や自由を保障していないことに気付かせるように構成している。

富国強兵に関する内容として、富岡製糸工場の絵と解説を添付し、徴兵令と地租改正についての簡潔に解説によって、富国強兵政策をとらえることができるように構成している。

以上のように、「国内の政治」(pp. 5-6) では、内容の精選という視点から、国内政治の柱を「中央集権」「四民平等」「富国強兵」にまとめ、簡潔に解説している。また、この内容を説明するために必要な資料を精選し、本文で関連づけて解説している。

方法知の視点からは、「江戸城に入る天皇の行列」をきっかけにして、「明治政府は、どんな国をつくろうとしたのかな」という学習課題を設定し、この課題を追究していく形式でページを構成している。追究の内容や必要な資料については、内容知に示したとおりである。また、学習の終わりに子どものキャラクターに次のような感想を述べさせることで、本小単元の課題に対するまとめを行っている。「・税金で集めたお金で文化や技術を取り入れようとしている。・外国に負けない豊かで強い国にしようと思ったのかな。」

ページ構成の視点からは、次のような基本的な形式によって、ページを構成している。



1小単元2ページの見開きで構成している。各部分の役割は次のとおりである。

◇Aの部分…小単元の課題にせまるメインとなる資料を位置付ける。本小単元では、「江戸城へ入る天皇の行列」と「藩から府県へ（廃藩置県）」の絵を位置付けている。

◇Bの部分…小単元の説明に必要な資料を、本文付近に位置付ける。本小単元では次の4点の資料を掲載している。「五か条の御誓文」「華族・士族・平民の割合」「五ぼうの掲示」「この時期の主なできごとを示した年表」

◇Cの部分…本文として、小単元の内容を簡潔に説明している。必要に応じて小見出しを入れ、わかりやすくしている。また、子どものキャラクターを登場させることで、楽しい雰囲気にするとともに、課題に対する感想を語ることで学習内容のまとめをするようにしている。

◇Dの部分…本文を補説したり、発展的に少し詳しい説明を加えたりしている。小単元「国内の政治」では、富岡製糸工場の絵と、その説明を位置付けている。

V　おわりに

学習指導要領の改訂にともなって、教科書会社から新しい教科書が販売され、教科書採用の審議を経て地域の所管内で採択されている。今回の教科書改善のポイントは、「内容の精選」と「学び方の指導」にある。この改善の方向を具体化するために、本小論では「内容知」「方法知」「ページ構成」の3点から教科書分析し、その問題点を明らかにするともに、日本文教出版の教科書をもとに、6年「開国と人々のくらし」の小単元の教科書改善モデルを提案した。この作業を通して、授業の核となる教材として活用される教科書像を明らかにすることができた。さらに、これまでは教科書会社の教科書を活用することがすべての教師の役割であったが、教師自身が教科書を開発できる具体例をも示すことができたのである。その意味では、与えられた教科書活用から各教師が作る教科書活用のあり方を示したところに意義がある。

今後は、教師自身の授業実践と授業に関与する学習者の学習意識に基づく教科書の作成の手法が、他の単元、他の学年でも活用できることを検証し、教科書の性格を与えられるものでなく、創りあげるものであると変革していくことが課題である。

【参考・引用文献】

1）文部省『小学校学習指導要領解説　社会編』日本文教出版、1999 年、p.5。

2）前掲書、pp.152～153。

3）本小論では、次の 5 社の教科書について分析した。
- 『新しい社会 6 上』東京書籍、2001 年検定済
- 『小学社会 6 年上』大阪書籍、2001 年検定済
- 『小学社会 6 上』教育出版、2001 年検定済
- 『社会 6 上』光村図書出版、2001 年検定済
- 『小学生の社会 6 上』日本文教出版、2001 年検定済

4）文部省、同上書、pp.96～97。

5）『小学生の社会　6 上』日本文教出版、2001 年検定済、pp.74～75。

6）同上書　pp.74～85。なお、教科書改善モデルにおける写真、絵図、キャラクターなどは、本書掲載のものを活用している。また、解説文についても文書表現を活用している。